

## 令和5年度学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 都立総合工科高等学校 学校運営連絡協議会(定時制課程)
- (2) 事務局の構成 教務主任、進路指導主任、生活指導主任、工業科主任 計4名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、進路指導主任、生活指導主任、工業科主任 計7名
- (4) 協議委員の構成  
保護司、管轄警察署担当係長、近隣中学校長、元大学教員 計4名

### 2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時および内容等
  - 第1回 令和5年6月22日(木)内部委員7名、協議委員3名  
これまでの教育活動に関する報告  
協議委員からの教育活動に対する意見、協議
  - 第2回 令和5年11月21日(火)内部委員7名、協議委員3名  
これまでの教育活動に関する報告  
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
  - 第3回 令和6年2月9日(金)内部委員7名、協議委員2名  
これまでの教育活動に関する報告  
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
- (2) 評価委員会の開催日時および内容等
  - 第1回 令和5年11月21日(火)内部委員3名、評価委員1名  
学校評価の観点および項目、評価内容の検討、実施時期の検討
  - 第2回 令和6年2月9日(金)内部委員3名、評価委員1名  
学校評価の観点および項目、評価内容の検討

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点  
「学校への理解」「学校の意欲と実践」「保護者との連携」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の対象・規模、実施時期

|     |       |        |        |           |
|-----|-------|--------|--------|-----------|
| 12月 | 全校生徒  | 対象:19人 | 回収:15人 | 回収率:79.0% |
| 12月 | 保護者全員 | 対象:19人 | 回収:6人  | 回収率:31.6% |
| 12月 | 教職員   | 対象:26人 | 回収:18人 | 回収率:69.2% |
- (3) 主な評価項目  
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、ライフ・ワーク・バランスの推進などの評価について、生徒・保護者・教職員ともに共通に17項目を設定した。
- (4) 評価結果の概要  
昨年度と比較し、概ね生徒及び保護者から肯定的な回答を得ている。保護者からは項目2、7、11、12、13について「そう思う」が100%の回答を得ている。  
項目1、4、5、6、9、11、12、14、15、17について、生徒、保護者、教職員において 回答差が生じている。

このことから、生活指導の方針(ルール)の徹底、基本的な生活習慣の確立、教育相談体制の充実及び周知の徹底が来年度の課題である。教職員と生徒および保護者との解釈の乖離がなくなるように、教育活動全般において丁寧な説明が求められる。

#### (5) 評価結果の分析・考察

昨年度の結果から全ての項目について生徒の肯定的な回答が上昇した。昨年度の否定的な回答が項目1～6、9、14～16が20%台、その他は8～17%であったが、今年度の否定的な回答については、項目14、17を除いて20%以下であった。しかし、項目14、15については、教職員についても否定的な回答が大幅に多いことから、明らかに改善が必要な項目である。

保護者からの意見において「高校に入ってからすごく成長している」と回答されていることから、本校の指導については満足されていることが伺える。

回答率についてはほぼ問題が無いと捉えているが、生徒数が少ないことから回答のパーセンテージの精度が課題である。

回答数については生徒および教職員について回答率が低い。保護者の回答数10については昨年度より回収率は上昇したが、依然として回収の努力を必要とする。

### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題

#### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

学校運営連絡協議会全3回を対面で実施でき、協議委員の生の声をきくことができた。コロナ禍での制限が解除され、体験的な活動が実施できるようになった。生徒はこれまでにコロナ禍の制限により積み上げていくことがない中で、地域連携による新たな挑戦を行ってきた。その経験を大切に、広報活動にも役立ててほしいというご意見もいただいた。来年度においても観点別評価、課題解決学習、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、生徒の「経験」や「体験」を重視することが再確認できた。各教員が生徒一人ひとりに対してきめ細やかで丁寧な指導を心掛け、保護者の意見や要望を親身になって傾聴していくことでさらなる向上が見込まれると考える。学校評価を良くすることが本校の教育活動の改善に繋がるよう、今後も評価と実態の整合性について検証し、より魅力的な学校作りを継続していく。

#### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

かなりきめ細やかな指導をしているが、学校の中での教育だけでなく、社会の中で育てることが大切である。また、教職員と生徒および保護者との解釈の乖離をなくすることが課題である。情報伝達の方法を工夫する必要がある。

広範囲にわたり募集活動を行っているが、入学者数の増加にはつながっていない。募集対策の方法や時期について見直すことはもちろん、本校の魅力を在校生に十分に感じてもらう必要がある。

### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

#### (1) 学習指導について

コロナ禍からの切り替えが十分に行えず、授業前の「総工定ベーシック」が展開できなかった。

「一人一台端末」を活用した学習活動を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現することにより、「課題解決学習(PBL)」の推進が急務である。

#### (2) 生活指導について

中学校以前の教育の成果によって、生徒の人権意識や主権者意識は穏やかに向上している。教員の校内研修を実施し、組織的な生活対応や指導力の向上を目指す。

#### (3) 進路指導について

細やかな進路指導を展開し、希望進路100%(8年連続第一希望100%)達成を継続している。次年度以

降も、生徒に動機付けをするために適切な進路講演会や説明会を設定するなど4年間を通したキャリア教育を展開する。

(4)その他

これまでも学校の教育活動を保護者に周知させるべく取り組んできたが、応募倍率の向上につながっていない。デジタル・メディア等の活用を促進し、応募倍率の向上を目指す。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1)協議委員人数 4人

(2)学校が良くなったと答えた協議委員の人数

| そう思う | 多少そう<br>思う | どちらとも<br>言えない | あまりそう<br>思わない | そう思わ<br>ない | 分からな<br>い | 無回答 |
|------|------------|---------------|---------------|------------|-----------|-----|
| 3    |            |               |               |            |           | 1   |

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 なし

8 その他

D X教育、Soceity5.0に対応した人材の育成を目指し、前例踏襲にとらわれないよりアクティブでクリエイティブな教育活動を実践することが求められる。デジタル・メディア、外部人材の活用等により生徒の好奇心を刺激し、「知」への欲求を高め、学校を活性化していく必要がある。そのためには教職員の連携を一層強固にして、オール総工で取り組んでいかなければならない。